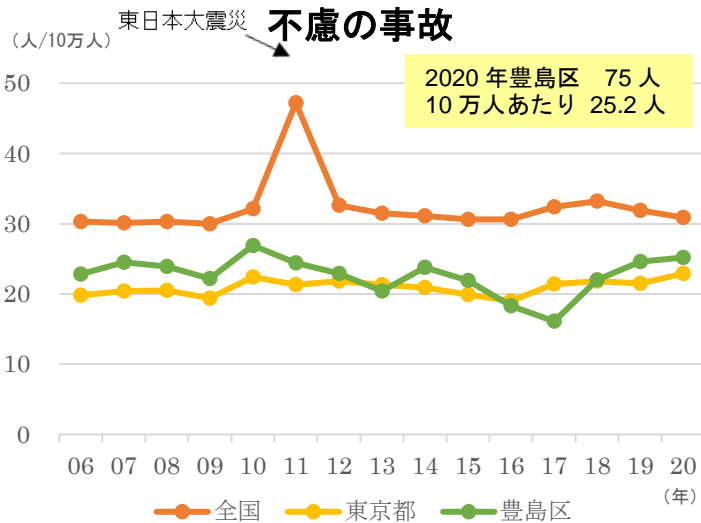


不慮の事故等による死亡・けがの状況

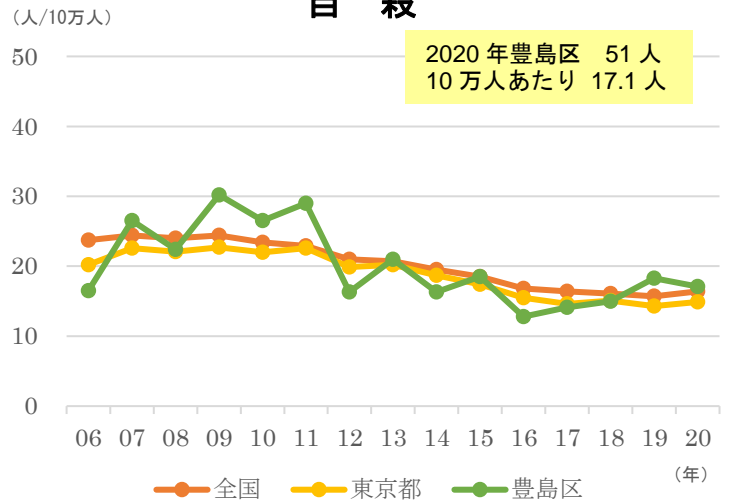
(1) 死亡に関するデータ (人口動態統計※)

※厚生労働省が実施する人口動態調査の調査票情報を利用した独自集計であり、厚生労働省の公表数値とは一致しない場合があります

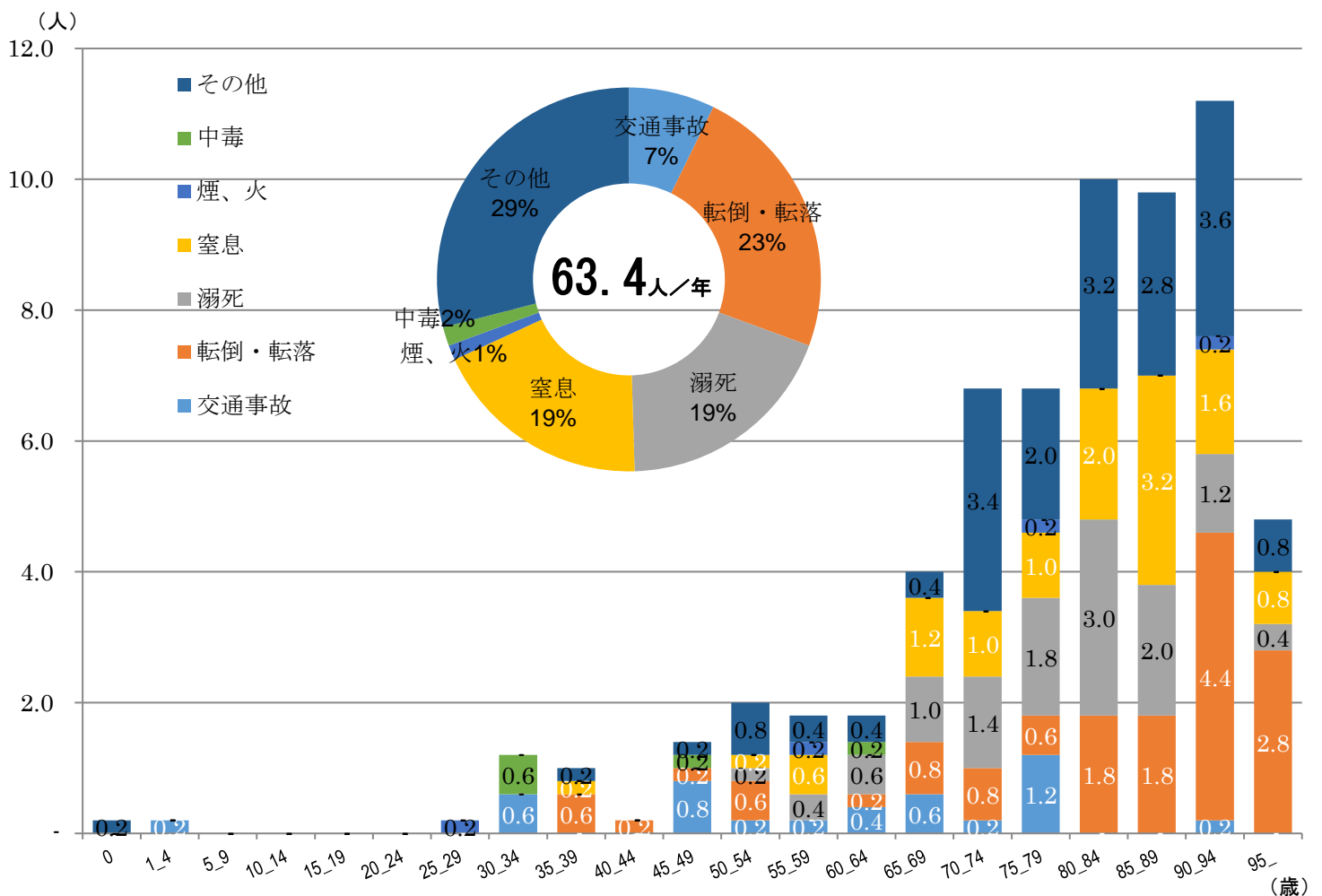
① 死亡の状況 (人口 10 万人あたり)



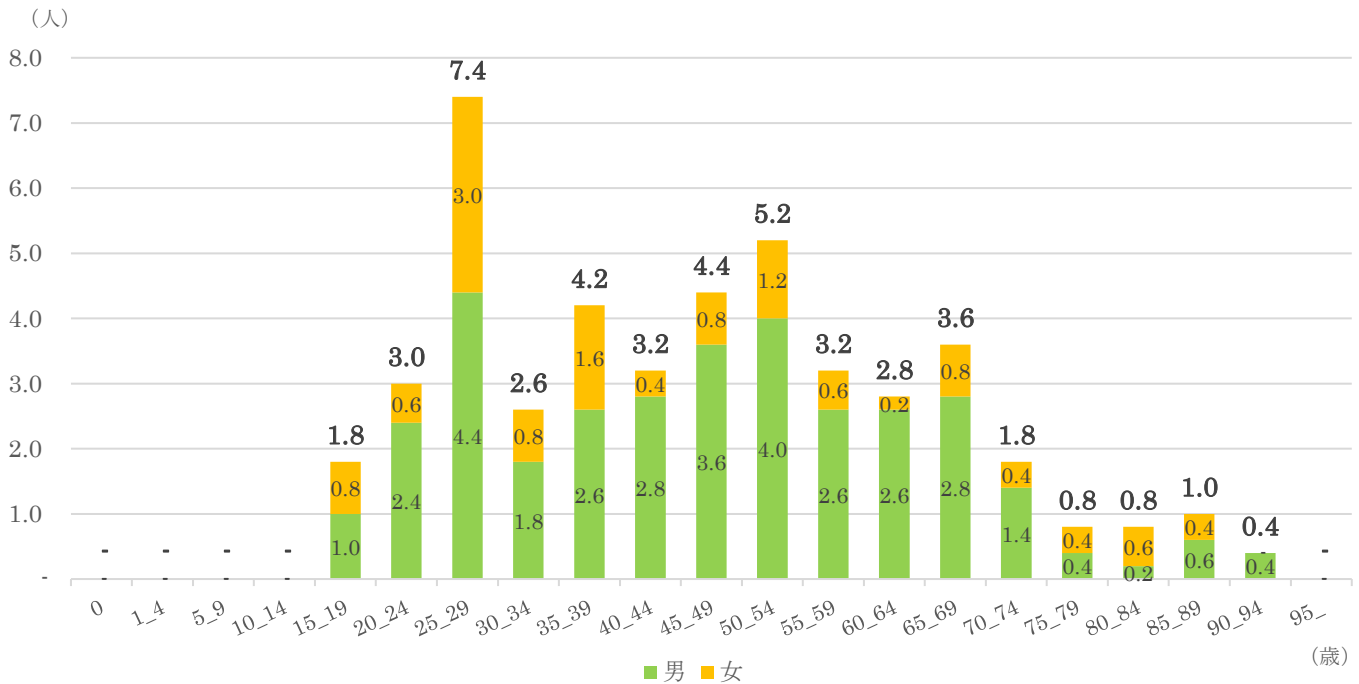
自殺



② 不慮の事故による死亡 [年齢別] (2016~2020年の平均値)



③ 自殺による死亡 [年齢別] (2016~2020 年の平均値)



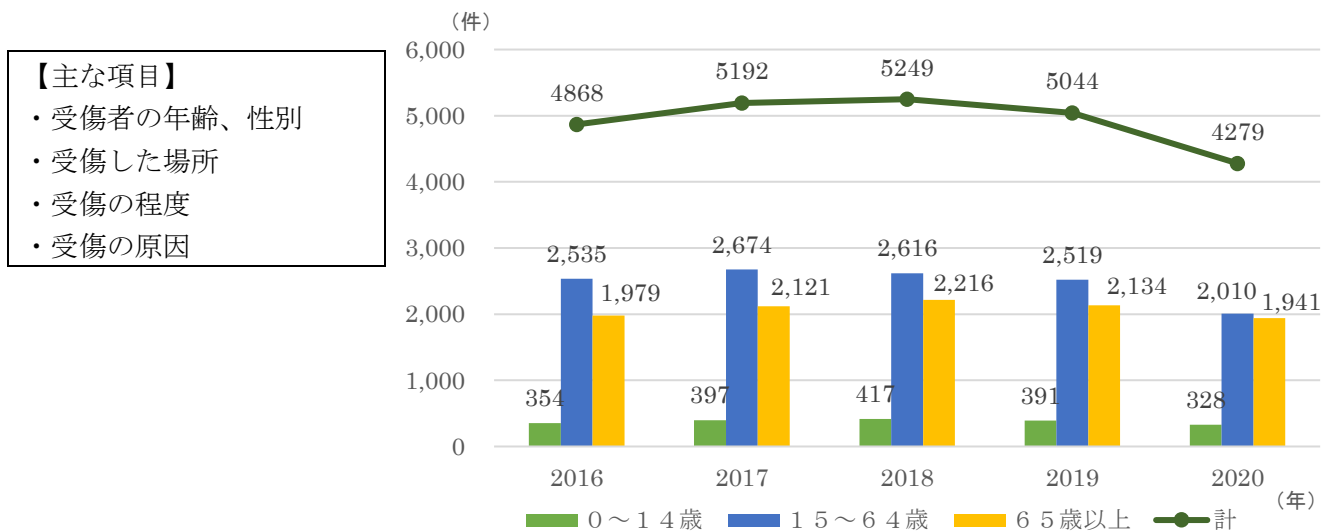
(2) けがに関するデータ (救急搬送データ)

① 救急搬送件数の推移

豊島区では、セーフコミュニティ活動の外傷サーベイランスの一つとして、消防署の協力により、個人情報を除く救急搬送データの提供を受け、傷害分析を行っています。

豊島区内への救急出動のうち、事故やけがにより受傷し、医療機関に搬送され、医師に引き継がれたケースを抽出して分析することにより、けがの実態を把握することができます。

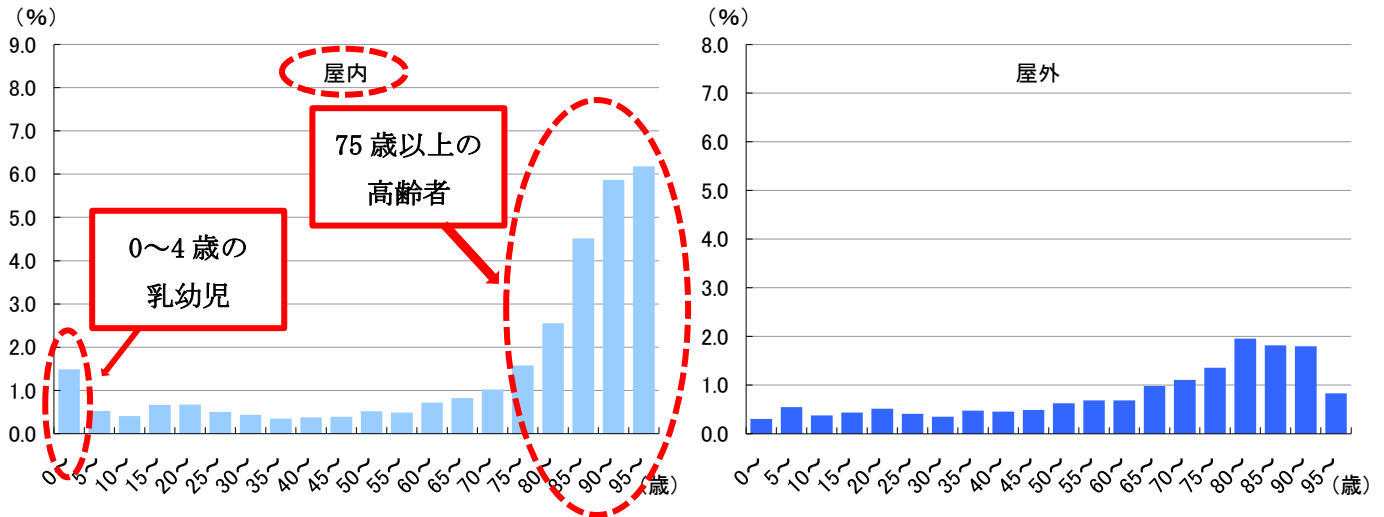
けがや事故によるものだけで、毎年平均 4900 件程度 (過去 5 年間) の救急搬送があります。



② 救急搬送に至った事故の発生率 [2020年]

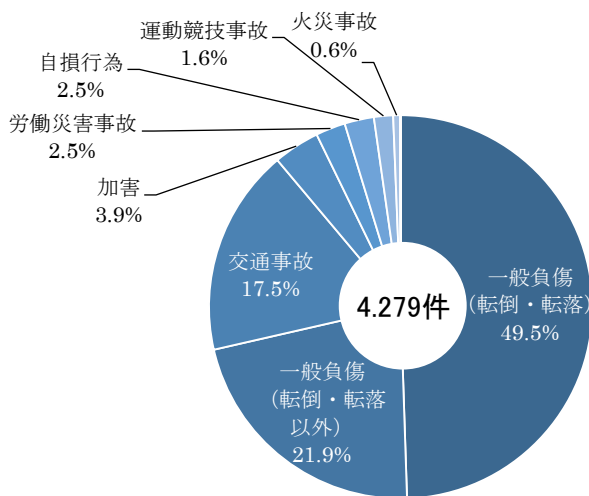
区内で発生したけが・事故による救急搬送は、2020年は4,279件でした。

各年齢層の人口をもとに各年齢層での発生率を算出すると、全体的に屋外よりも屋内での発生率が高く、さらに屋内では0~4歳と高齢者の発生率が特に高くなっています。



③ どんな事故が多いか [2020年]

事故の種別ごとに救急搬送の状況をみると、全年齢では一般負傷（転倒・転落）の割合が50%程度と最も多く、次に一般負傷（転倒・転落以外）が21.9%となっています。65歳以上では、転倒・転落が7割以上を占めており、0~14歳では、転倒・転落以外の一般負傷と運動競技事故の割合が全年齢と比べて高くなっています。

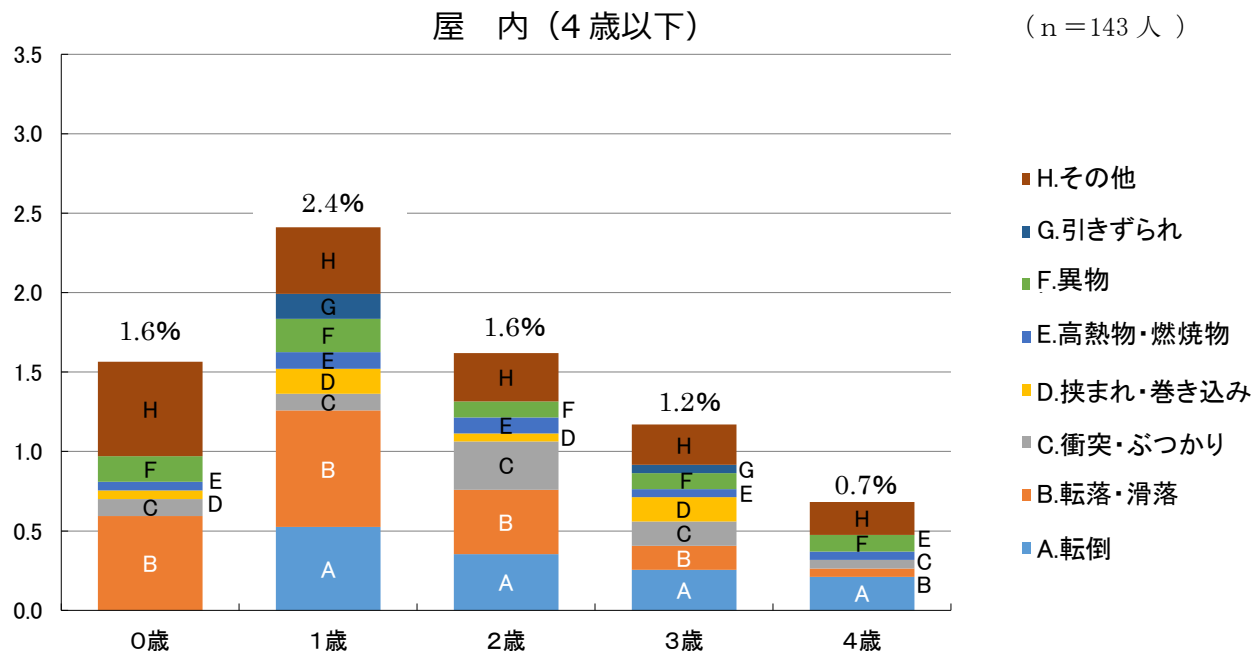


	全年齢	
	うち0~14歳	うち65歳~
合計	4,279	1,941 (100.0%)
一般負傷(転倒・転落)	124 (37.8%)	1,419 (73.1%)
一般負傷(転倒・転落以外)	133 (40.5%)	318 (16.4%)
交通事故	51 (15.5%)	154 (7.9%)
加害	5 (1.5%)	16 (0.8%)
労働災害事故	0 (0.0%)	16 (0.8%)
自損行為	0 (0.0%)	7 (0.4%)
運動競技事故	14 (4.3%)	3 (0.2%)
火災事故	1 (0.3%)	6 (0.3%)
水難事故	0 (0.0%)	2 (0.1%)
自然災害事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)

④ 4歳以下の屋内でのけがの原因 [2020年]

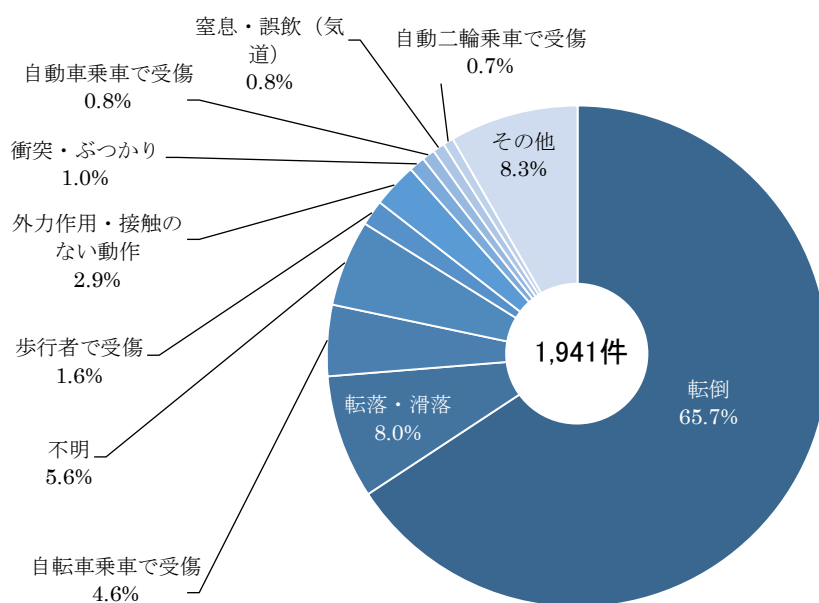
屋内でのけがの発生率が高い0~4歳の子どものについて、もう少し詳しく見ると、1歳が2.4%と最も高く、次いで0歳と2歳が1.6%という順になっています。

また、けがの原因を見ると、1~4歳では総じて転倒が多くなっている一方、0歳では転落・滑落、異物の割合が高くなっています。



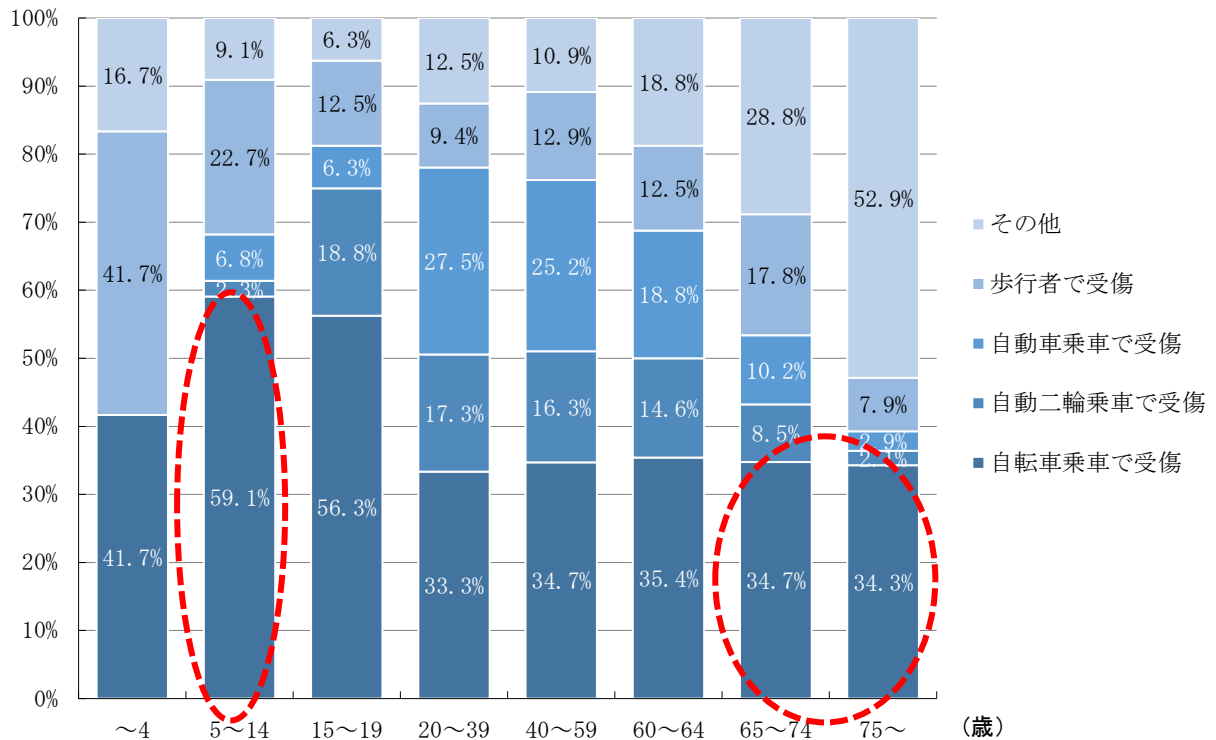
④ 高齢者のけがの原因 [2020年]

高齢者のけがの状況について救急搬送データを見ると、転倒と転落・滑落が約7割となっています。一方、不慮の事故による死亡原因（高齢者の安全対策委員会のページ参照）においても、転倒・転落が最も多く、次いで溺水・入水が多くなっています。



⑤ 交通事故によるけがの状況 [2020年]

救急搬送データから、年代別に交通事故の発生状況を見ると、例年5～14歳の子どもと65歳以上の高齢者で自転車乗車中の事故の割合が高くなっていました。しかし、2020年は5～14歳の子どもについては傾向に変化はなかったものの、65歳以上の高齢者について、他の年代と変わらない割合となりました。



⑥ 自殺未遂の状況 [2020年]

救急搬送データの自損行為（自殺・自殺未遂）による救急搬送は、2020年では106件発生しています。年齢層別にみると20歳代が48件で最も多く、全体的には男性よりも女性が42件多くなっています。

(件)

